

## 2008度 学校運営方針

「大切な一人ひとり」

# 「3RE 他を重んぜよ」

## REGARD/REFLECT/RESPECT

### I. 今年度の学校目標

#### ・ 「3RE 他を重んぜよ」 REGARD/REFLECT/RESPECT

「真の礼節の神髄は他人のことを思いやることの中にある。本質的で永続的な教育とは、同情心を広くし、博愛心を助長する教育である。少年少女たちが親を尊敬しなかったり、その美德を認めることができなかつたり、その欠点を忍ぶことができなかつたり、その必要に役立つことができなかつたり、あるいはまた幼い者や老人や不幸な人々に対して思いやり深く、優しく、寛大で、助けになることができなかつたり、すべての人に対して礼儀正しくなれないようなら、彼らのいわゆる教養は失敗である。」(EG ホワイト 教育 p284)

生徒たちの価値観の中により高い思想とより洗練された態度を求める姿勢を植えつけることが求められている。北浦三育中学校の今年度の学校目標「3RE 他を重んぜよ」REGARD/REFLECT/RESPECTには「神」と「人」に対し常に関心を持ち、その意思を汲み取った上で十分に反映し、そして敬虔さと謙虚さを持って対象を敬う姿勢を習慣付けたいという願いを込めている。私たちが、この一年間で目指していきたいのは、単に外見を整えるための態度やむなし形式だけに高い価値をおくことではない。北浦三育中学校で学ぶ一人ひとりが真の礼節とその美德を身に付ける一年となることを願う。

LOVE IS NOT RUDE 愛は無作法をしない

### II. 努力目標

#### ①学習教育面

「真の教育者は、自分の生徒がどんな者になるかということ念頭において、自分が働きかけている素材である生徒の価値を認めなければならない。彼はひとりびとりの生徒に個人的な関心を持ち、そのすべての能力を発達させることにつとめなければならない。正しい原則に一致するためにはどんなに不完全でもあらゆる努力を払うように奨励しなければならない。」(EG ホワイト 教育 p276)

#### ・ 学力の向上

- ◇ 学習における『3RE』は生徒個人個人にその生涯を通じて神が用意しておられる能力に我々大人が関心を持ち、それを大切に伸ばしていこうと努力することにある。子供たちに自分の将来について夢を描かせ、その実現のための学習目標を設定させ、学習意欲を継続させることが、肝要である。各科目担当者は今年の生徒の能力に適した授業計画を期首にまとめ、生徒と保護者に知らせ、形式的ではなく意欲的に理解していくための工夫を怠ってはならない。
- ◇ 主要5科目の授業担当者は、復習型の授業への取り組みから予習型への取り組みに生徒の勉強の質を変換していくことを目指して、具体的な予習の方法を例示し、授業内で確認を行うことを習慣としていくよう努力すること。
- ◇ 生徒の実情にあった副教材を準備し、授業計画の中でそれを必ず活用すること。また、さらに理解や興味の度合いの高い生徒のために、自主学習に適した教材を紹介し、その興味と理解を能力に応じてさらに高めていくことに導くこと。

- ◇ 主要5科目については、単元試験の他に1,2学期末には、その学期に学習した全範囲についての期末試験を行い、3学期末には、その年度学習した全範囲に関して出題する年度末試験を行って到達度を確認すること。
- ◇ 主要5科目については、年5回の模擬試験を実施し、中学全範囲の学習内容に関して定期的に振り返り、その定着を図るようにGANBARU TIMEを利用した十分な補習演習を行うこと。
- 国語：国語教育における『形』は、しっかりと「読み、書き、話す」ことができるということにある。全生徒が、現在よりも語彙力を向上させるためにも漢字検定で現在よりも一つ上の級への挑戦をさせたい。年度内にそれぞれが最低一度は検定試験に挑戦しアップグレードすることを目指す。卒業までに3級合格を目標とする。また、表現能力の向上に向けた取り組みを新たに開始する。
- 数学：数学学習の『形』は計算力にある。2年目となる授業時のはじめの10分を利用した公文学習をさらに充実させ中学3年夏までに学年相当以上のレベルの計算力を付けさせることを目指す。また、特に2,3年次には順次学習の理解度に応じた授業内容の構成を考え、必要に応じたクラス編成によって個々の能力の最大限の発達を促す。
- 英語：英語学習の『形』は語彙力の習得にあるとし、今年度もはじめにその学年に学習する英単語を全て習得させる取り組みを行う。3年生については習熟度別授業を行うが、2,3年生で特に英語の能力のある生徒に対しては、週1時間ライティングを中心とした英語による授業を継続し、より高いレベルでの確実な英語力の育成を目指す。さらに英語検定では1年生は5,4級、2年生は4,3級、3年生には3級の合格を目標として掲げ、さらに能力の与えられている者には準2級以上へ挑戦させる。1年に1度は次の級へチャレンジさせる強力な取り組みを行う。
- 3年次海外研修の目的を「実用的な英語力の養成と実践」として位置付け、その準備学習として1,2年生を対象に英語集中研修を12月に実施する。これは、校外から外国人講師（第二言語としての英語教育の有資格者）を招聘し、5日間の日程で学期末プログラムと並行して行う。
- 模擬試験を年間5回、5科目（国数英社理）について行い、それに向けた計画的継続的な学習の習慣を付けさせるように指導する。受験に当たってはGANBARUTIMEなどを利用して予め関連した問題に取り組みさせるなどの積極的な準備が必要となる。年間を通じて高校受験生の全国レベルと比較しても全科目で平均以上となることと在学期間中各自の達成度が常に上昇傾向にあることを指標とした取り組みを行う。
- GANBARU TIMEの中でも月曜日に数学教室、火曜日に国語教室、水曜日に英語教室を実施し、校舎での学習塾的な補習演習プログラムを充実させる。理科、社会は2週に一度のペースで学習する。
- 学習の『形』として学習用品を毎日寮自室の定められた場所から出し入れし、整理整頓する習慣を身に付けさせることを第一の指導目標とする。また日頃の授業を中心とした学習習慣をしっかりと身に付けさせるための指導を行う。同様に教室における学習環境を整えるためにも登校かばんの中身と机やボックスの中の整理の指導を強化する。

## ② 宗教教育面

「イエスを心に思っていたきたい。ここにあなたがたの真の理想がある。天来の教師イエスのみたまによってわれわれの心と生活が占領されるまで、この理想をみつめ、これを心に思いつづけなければならない。

そのときわれわれは『主の栄光を鏡に映すように見つ、……主と同じ姿に変えられていく』のである。これが生徒に対するわれわれの力の秘訣である。イエスを反映しなさい。」 (EGホワイト 教育 p332)

・ 信仰生活の充実

☆ 宗教教育の『3RE』は、イエスを模範として生きる姿勢を身に付けさせることにある。イエスならばどのように礼拝したろうか、イエスならばどのように祈ったろうか、イエスならばどのように賛美したろうか。そのことを我々の選択の基準と出来るような取り組みを行いたい。

- 「礼拝」: イエスのように礼拝する。礼拝にふさわしい服装、ふさわしい雰囲気などを意識させて参加させるように心がける。また、礼拝を行う場所を聖別する意識も養えるようにしたい。礼拝堂として利用するチャペルとそれ以外での利用時とを区別し、意識させる指導を行いたい。
- 「祈り」: イエスのように祈る。祈りに加わる心の備えなどについて意識させるようにし、祈祷会等を中心とした祈りの時を大切に、個人的にも祈る習慣を養う。チャペルでの早天祈祷会も継続していく。お祈り時の参加の姿勢について公の祈りの場での心構えも含めて細やかな指導を行っていく。
- 「讃美」: イエスのように賛美する。新しい SDA「希望の讃美歌」の普及に努め、教会、学校、寮においてできるだけ多くの讃美歌に触れる機会を得られるように工夫する。寮と教会には「希望の讃美歌」を備え付けとするが、今年度1年生からは全員個人所有とする。また、伝統的な讃美歌、一般的な宗教曲、新しい讃美歌などをバランスよく取り入れて讃美する経験を通して様々な場面にふさわしい讃美と奉仕の習慣を養う。大きな声で讃美する習慣を育てていく。

### ③ 生活教育面

「すべてのことに、節制と規律を守ることは、ふしぎな力がある。優しい静かな性質は人生行路を平らかにするのに役立つが、これを助長するには、節制や規律を守ることが環境や生まれつきの才能よりも力がある。同時に、こうして身につけた自制の能力は、ひとりびとりの人間を待ちうけているきびしい義務や現実と取り組んで、これに成功する上に最も価値のある資格の一つであることがわかる。(EGホワイト 教育 p244)

・ 学校生活の充実

様々な集会への参加に当たって5分前スタンバイを定着させ、その5分間を落ち着いて待つ習慣を付けさせるよう努力する。そのためにも教職員自身も5分前スタンバイを励行したい。

・ 寮生活の充実

☆ 寮生活での『3RE』は、良い生活習慣への関心、共に生活する人に対する配慮、そして先輩からのよい伝統を大切にすることにある。寮生活基本である「寝る」「起きる」「食べる」「片付ける」「学ぶ」「交わる」の6項目について規則正しい生活習慣を身につけることを目標に指導する。すべてのことに節制と規律を守ることの習慣がついたならば一生の宝となるはずである。ある面では、家庭での生活指導を補うという側面も含め、寮制の特徴をはっきりと前面に押し出した取り組みを心がける。

- 「寝る」: 消灯時間を守り、あらかじめ自主的に就寝する用意をする習慣をつける。
- 「起きる」: 起床時間に自主的に起き、身支度を整えて礼拝に参加する習慣をつける。
- 「食べる」: 1日3回食堂においてきちんと食事を摂り、間食しない習慣をつける。

- 「片付ける」：掃除洗濯と効率的な整理整頓、そして物品の管理の習慣をつける。
- 「学ぶ」：GANBARU TIMEでの自主学習と翌日に向けた学習準備の習慣をつける。
- 「交わる」：寮生との交わりを大切に、行事などに積極的に関わる習慣をつける。
- ◇ 他者への配慮という側面から普段からの言葉使いについても丁寧な言葉を用いることを強調したい。「日本一綺麗な日本語を使おう」を合言葉に教職員も共に取り組みたい。
- ◇ 寮生一人ひとりが自分の寮について誇りを持つことができるような意識作りを心がけ、「カナンスタイル」、「シャロンスタイル」の確立を目指す。
- ◇ 公共物を大切に、自分たちの寮をはじめよりも綺麗な状態で後輩に渡すことができるような心構えを持ち、極力、汚損、破損のない寮生活を目指す。また、そのような状況を放置せず、改善していこうとする精神を養う。
- ◇ 環境に配慮する取り組みを各寮や食堂において充実させ、実行可能なものから開始する。

#### ④ 労作教育面

「このような訓練によって、青少年は労働の奴隷となることなく、かえって主人となる。それは勤労者の負担を軽くし、どんなに卑しい職業も高貴なものにする。働くことをただのほねおり仕事に思い、無知な自己満足をもってこれにとりかかり、進歩するために努力しない者には、ついにはそれがほんとうに重荷となってしまうのである。しかしどんなに卑しい働きにも知識をみとめる者は、そこにとうとさと美しさを見、その働きを忠実に能率的に遂行することに喜びを感じるのである。このような訓練を受けた青少年は、一生の職業がどんなものであろうと、それがまじめなものであるかぎり、自分の地位を有用にして尊敬に価するものとするのである。」 (EG ホワイト 教育 p263)

##### ・ 労作教育の充実

- ◇ 労作教育における『3RE』は、各自に与えられた能力に関心を持つことにある。仕事に対する価値観と姿勢の育成を目標とする。1年生には特に基本的な掃除の方法を身につけさせることを目標に指導する。2年生は、中心となる4部門に年間を通じて交代で所属し、それぞれの部門の状況に応じた計画の立案とその実行を目標に指導する。2年生の3学期には、いくつかの分野では各自のタラントに応じた配置も行う。3年生では、各自の興味や特技なども考慮して多くの部門に別れて働きその能力をさらに伸ばしていくことを目標に指導する。
- ◇ 自らの学校を自らの手で維持し役割を分担して働き、大切にしていくことも労作教育の目標の一つである。
- ◇ 常に最良の状態で行うことができるよう、また次に使う人、次に使う時を考えに入れた道具の扱いや保管場所の徹底、また機器類の管理の仕方という側面での指導にも力を入れて指導する。
- ◇ 安全教育にも力を入れる。作業に合った服装や靴の着用など常に安全を確認するという『形』をおろそかにせず、それぞれの部署でなれ合いによる怪我やミスなどが発生しないように心がける。
- ◇ 教師自身も担当する部門での働きについてできる限り技術面でも研鑽を積みつつ指導にあたっていきたい。
- ◇ 今年度から班農業を食農として再編成する。平成17年度に制定された食育基本法には、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』が重要である」と明記されている。さらに、「食料の生産から消費に至るまでの食

に関する様々な体験を通じて『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」と明確に目的を示している。この精神と SDA のライフスタイル推奨に鑑み、昨年度行った班農業（12班に分かれて土地を管理し、3年間を通じて農業に親しむことで食育と健全な精神の育成などに寄与できるような取り組み）を発展させ、食の安全についての講演や学習会などもあわせて企画し、その体験を通して生涯を通じて神に与えられた体を健康な状態に保つことへの興味を高めたい。「食農」は、総合学習の一つとして位置付け、各自がポートフォリオ形式でその活動の記録を付ける習慣も育成する。作物の生育に対する年間を通じた気配りができるようになることも目標としたい。

### Ⅲ. 三育教職員の目指すもの

- ・ E.G ホワイト著「教育」七『品性の形成』より抜粋

「今日、教育の働きにおいては、これと同じ個人的な関心、各個人の発展についての同じ注意が必要である。表面は有望に見えない少年少女の中には、豊かな天分が与えられていながらそれを用いていない者が少なくない。教育者の側の認識が足りないために、彼らの才能は隠されたままになっているのである。表面はあらけずりの石のように見ばえのしない少年や少女の中に、熱やあらしや圧力のどんな試練にも耐える貴重な素質が見いだされることがある。」(274p)

「言葉について最大の必要は、それが純粋で親切で真実でなければならないことである。言葉はすなわち、「心の美德が外部に表現されたもの」でなければならない。神はこう仰せになっている。

『すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。』もしこのような思いを持っているなら、表現もまたそのようなものとなるであろう。」(277p)

「品性の美德というものは独断的なおきてや規則などによってつちかわれるものではない。それは純潔、高貴、真実といったような雰囲気の中に住むことによって養われるのである。純潔な心と高貴な品性のあるところには、必ず純潔で高貴な言葉と行為が見られる。「心の潔白を愛する者、その言葉の上品な者は、王がその友となる」とある。他のどんな学課もすべて言語の場合と同じである。それらもみな品性を築き育てる上に役立つように指導することができる。」(280p)

「親と教師は特に明るい心と礼節を育成しなければならない。明るい顔とやさしい声と礼節のある態度は、だれにでもできることで、それはまた能力の要素でもある。子供たちは明るい快活な態度にひきつけられる。われわれが子供たちに親切と礼儀を示すとき、彼らもまたわれわれに対しまたお互いに対して、同じ精神を表わすのである。」(283p)